

報 告

- ◎森林セラピー国際シンポジウムが開催される
- ◎海外安全講演会が開催される
- ◎夏休み昆虫教室が開催される

◎森林セラピー国際シンポジウムが開催される

6月18日～19日に東京都渋谷区の明治神宮において、森林セラピー国際シンポジウムが森林総研等の主催で開催されました。18日午前には、神宮の森で兵庫県立大 上原 徹 助教授と東京都の森林インストラクターら30名による森林療法カウンセリングが行われ、80名の一般参加者が森林療法を体験しました。午後は、参集殿で200名の聴衆のもと研究セミナーが開かれ、森林総研のほか国内研究者による森林浴の生理・心理・物理的効果に関する最先端の研究発表および会場参加者を交えてのパネルディスカッションを行いました。19日は、東京大学医学部 大井 玄 名誉教授、大阪大学医学部 森本 兼義 教授による特別公演等が行われた後、ドイツ・ミュンヘン大学 コルゲン・クラインシュミット 教授、韓国忠南大学校 孫 晋勛 教授、京都大学医学部 白川 太郎 教授による基調講演およびフロアディスカッションが行われ、森林セラピーの世界的な研究の現状と最新の医学的研究成果を紹介しました。これらの模様は 孫 教授の研究発表を中心にNHKで全国放映されました。



◎海外安全講演会が開催される

7月11日午後、所内で海外安全講演会が開催され、大盛況でした。

森林総合研究所では年間のべ300人近くの職員が海外出張しており、日ごろから職員に対して海外出張・派遣の際に安全・健康対策について注意喚起を行っています。しかし、最近の海外の情勢を見ると、テロ事件、重症急性呼吸器症候群（SARS）や鳥インフルエンザなどの感染症、スマトラ沖地震・インド洋津波や中国での反日デモといったように、さまざまな事件や事故が頻発しています。奇しくも、この講演会直前にもロンドンで同時多発テロが発生しました。

今回の講演会では、外務省海外安全相談センター室長の伊藤光子氏を講師にまねき、海外での安全・健康対策、危機管理についてご講演いただきました。講演会に対する関心は高く、約100名近くの職員が参加しただけでなく、（独）国際農林水産業研究センターや大学からの参加者もありました。

講演の中では、さまざまな事例を紹介してわかりやすく説明いただきました。とくに海外出張に際しては、事前と滞在中の情報収集と適宜の連絡といった基本的なことの積み重ねが大切であることがあらためて確認できました。また、長期の滞在においてはメンタル面のケアが重要になりつつあることなど新しい情報を得ることができました。なお、外務省海外安全相談センターでは、下記のウェブサイトで様々な情報を発信しています。出張予定者はもちろん、日ごろからご覧になりお役立てください。



<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

◎夏休み昆虫教室が開催される

8月6日（土）、「夏休み昆虫教室」が開催されました。自然をより身近なものとしてとらえ、子供たちに昆虫に慣れ親しんでもらい、また、夏休みの思い出の一つになればと企画したもので、今年で4回目の開催になります。

午前・午後の2部に分けて行い、付き添いの方を含めて計70名の参加がありました。

講師から昆虫の取り方や使用する道具について説明が行われ、その後、カブトムシとセミの標本作りに挑戦しました。子供たちと一緒に付き添いの方も夢中で標本を作っていました。



建物の3階まで届きそうな虫取り網です。高いところにいる虫を捕獲するのに使います。

昆虫を捕まえるには、虫取り網だけでなく、このようなトラップも使います。



マレーストラップ



ライトトラップ



カブトムシの足の形を整えて虫ピンで固定します。



セミの羽をテープで押さえながら虫ピンをさして形を整えます。



採集年月日・採取場所・採集した人の名前を書いたラベルをピンで留めます。このラベルが無いと標本とは言えません。